



アルゼンチン通信



第7号 2025年02月28日発行(毎月月末発行予定)

JICAシニア海外協力隊2024年1次隊:経営管理

玉東町グローバル2024年03月卒業生 鈴木功二

アルゼンチンに来てから半年以上が経過、2月も夏真っ盛りで、最高気温が40℃近くの日が続いています。日本でも、真夏は「暑いですね。」が挨拶がわりになりますが、こちらの地元の人(サンティアゴ人)も「暑い！」を連呼しています。確かに昼間の紫外線は強く、風が吹けば熱風ですが、建物の中は涼しく、寒さが苦手な私にとっては快適です。

今回は、私の配属先であるアルゼンチン国立工業技術院にて、私の同僚であるゴンザロさん(フルネームは、カスティリオーネ ゴンザロ ホセ さん)を紹介します。

彼にインタビューして記事にしたのですが、一部日本語として不自然な箇所がありますが、御容赦いただき、その意図を感じとっていただければ幸いです。



・誕生日とその感想

ゴンザロさんは2月28日に46歳の誕生日を迎え、人生のすべてに感謝し、祝福されていることに喜びを感じています。

・彼の名前の由来と家族構成

彼の名前はスペインに由来しており、母方の家族にとって重要な意味を持ちます。彼の家庭生活については、結婚は日々の積み重ねで必ずしも容易ではないものの、愛とコミットメントがあれば成り立つものであると強調します。彼と妻には健康で優秀な2人の子供がおり、彼の願いは子供たちが幸せで、人生で成功するために必要な道具(あらゆる機会)を与えることです。彼には6人の兄弟がおり、両親も健在です。彼は、両親と過ごした団結した家族の時間を懐かしく思い出しています。

・趣味と家族生活

彼は、日々の終わりに安らぎを感じられる家族の存在を大切にしています。彼は妻の素朴さに惚れ込み、共に堅実で愛情に満ちた生活を築いています。

・教育と学校の思い出

学校での思い出を大切にしているゴンザロさんですが、教育の中で最も重要なことは家族から学んだことであり、さまざまな現実を観察し、人間性を形成したことだと考えています。日本については学校ではなく、アルゼンチン国立工業技術院(通称インティ)で学びました。

・人生経験と日本

ゴンザロさんは学生時代と働いていた時にトゥクマン(ここから北東に約160Km)に滞在し、故郷であるサンティアゴ・デル・エステロとの人々の態度の違いに気づきました。彼はJICAの援助で2週間日本を訪れ、その体験を信じられないほどずばりしかったと語ります。日本での一番の思い出は、静寂、敬意、秩序、清潔さです。彼は、アルゼンチンと日本との大きな違いを指摘しながらも、日本の形式や組織を重んじる一方で、アルゼンチン人の温かさや友情も高く評価しています。



・アルゼンチンの貧困と日本文化

アルゼンチンの貧困率が約50%であることを踏まえ、彼は皆が態度を改める必要があると考えています。彼は日本文化への感謝を述べ、学んだことを日常生活に生かそうとしています。この半年間、日本人と働いた経験から、日本人の異なる視点や、他人を向上させるために知識を共有する方法を高く評価しています。

・インティ(アルゼンチン国立工業技術院)での仕事

ゴンザロさんはインティで技術支援に携わっており、この仕事に情熱を注いでいます。企業の改善や前向きな変化を促す手助けが喜びです。彼は2013年からインティで働いており、絶え間ないトレーニングやさまざまな企業の人々との接触が仕事の貴重な側面であると強調しています。インティに入社する前は、民間企業でさまざまな職務を経験し、そこで専門職の実践的な現実を学びました。

・好きな言葉と将来の夢

彼の好きな言葉は「共感」です。物事がうまくいくためにはお互いを理解することが大切だと考えています。彼の将来の夢は学び続け成長し、経験を共有し、良い人間、良い父親になることです。彼にとって、人生で最も大切なものは家族です。

・日本の地方自治体へのメッセージ

ゴンザロさんは、日本の地方自治体が文化を広めるために行っている取り組みを尊重しており、日本人の価値観や言葉に感謝しています。彼の日本の地方自治体へのメッセージは、日本の専門家がアルゼンチンに滞在している間、その価値を最大限に活用してほしいということです。

(スペイン語版を同時配信)

鈴木功二